

# YOUTH MANNA



人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。(マタイ20:28)

2026/3/9(月)

## 民数記 35:1-8

- 主はモーセに何を命じられただろうか。(1-3)
- レビ人は、合計いくつの町を与えられたかな?(7)  
→レビ人は様々な街を与えられ、各地に散らばっていた。それは、契約の箱のところに行かないと礼拝できなかったこの旧約の時代に、民たちがそれぞれの場所で神様を覚えられるようにするためだった。神様は、一人一人が神様を忘れないように配慮してくださっているんだね。
- ★今、私たちは聖霊が与えられているので、教会以外でも礼拝したり祈れるけど、私たちにはどんな「神様を覚える方法」が与えられているか考えてみよう。神様の配慮に感謝しよう。

2026/3/10(火)

## 民数記 35:9-34

- 逃れの町の規定があることは人への神様の憐れみがあらわされているよ。何故なら私たちは間違えて人を傷つけてしまうことがよくあるからだ。逃れの町の規定は、約束の地が復讐心や実力行使ではなくて主の公正な定めに従って治められるべきであることを示しているよ。私たちは人を殺してしまうことはほとんどないでしょう。でも聖書では人の存在を否定する言葉(ばか者)を言うことも、殺人のような罪だと言っているんだ。
- 日々の生活の中で私たちは隣人に対してどう思っているだろうか? 悪い思い、裁く思いがあるのなら悔い改め、隣人への愛を求めよう!!

2026/3/11(水)

## 民数記 36章

- 27章でツェロフハデの娘たちが訴えたことを覚えているだろうか。父に男子の子がいなかったため、娘たちに相続地が受け継がれることになっていたけれど、もし彼女たちが他部族の人と結婚したらその相続地はその部族に移ってしまうのではという懸念があったんだ。(1-4)
- 神様はこの訴えを認めたよ。神様が許したことと禁じたことは何だったかな? それは民全体が祝福の内に歩むことにどのように関係しているだろうか?
- 個人の自由と神様のみこころを考慮することの優先順位はどうあるべきだろうか?

2026/3/12(木)

## ローマ 1:1-7

- 手紙のパウロはイエスキリストの何と名乗っているかな? 1節
- 聖書にあらかじめ約束してあったことは誰を通して約束されていたかな? 6節
- この箇所は、まだパウロの訪問していないローマのクリスチャンに送った手紙の自己紹介の箇所だよ。パウロさんは最初の自己紹介の中で福音について書いているよ。イエスキリストが旧約聖書から約束されたことや、イエス様が神の子として死者の中から復活されたことを書いているよ。イエス様の犠牲と私たちが神様のしもべであることはとっても大きな恵みだよ。この恵に感謝して出ていこう!

2026/3/13(金)

## ローマ 1:8-17

- 16節を読もう。パウロが恥としませんと言っているのは、何についてだと書いてあるだろうか?
- クラスで何かを決めたり、友達と話したりする中で、周りの人と自分の意見が違ったことはある?
- 自分と周りの考えが違う時、間違っているんじゃないかと不安になったり、自分の考えをみんなに言うのが難しいと思うこともあるよね。パウロの周りではイエス様を信じている人は多くなかった。でもパウロは、福音は恥じゃないと力強く書いているよ。神様に「福音を恥としません」と宣言する祈りをしてみよう。

2026/3/14(土)

## ローマ 1:18-32

- 今日の箇所では人が神様に従わず、罪を重ねている姿が記されているね。具体的な罪がどういうことかたくさん分かんと思うけど、この全部は『神様を恐れていない』心から来ているんだ。神様を恐れていないっていうのは、尊敬していない、大事にしていけない心ってことだよ。
- 神様のことを恐れていなければ、神様の言っていることも大切に思えないし、従うことの大事さも分からない。
- 神様は愛をもって私たちに近づいてくださる方だけれど、それと同じくらい神様を恐れるってことも必要なんだ。神様を尊敬して大切にしたら時、今日何ができるかな? 祈りながら神様に聞いてみよう!

2026/3/15(日)

## ローマ 2:1-16

- 一章の終わりでパウロは異邦人の罪について語りましたが、この箇所では「さばくあなたが同じことを行っているからです。」と、罪の問題を自分のこととして受け取るようにと語ります。
- しかし、パウロは人々を罪に問いただすことを目的としたわけではなく、「神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導く」と人々に悔い改めを迫りました。続けて7節には永遠のいのちが与えられることも語っています。
- パウロは罪に対して厳しく語りながらも、神の愛となぐさめが私たちの歩みの背後にあることを覚えるように、手紙に記しました。自分の歩みを振り返り、必要であれば神の愛によって悔い改めに導いてくださるように、祈ってみよう。